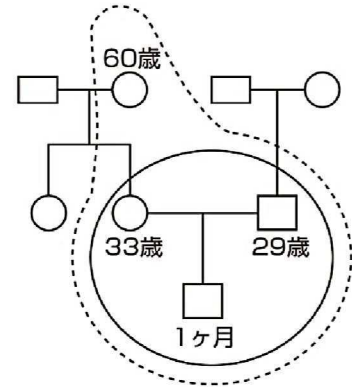


不思議な不思議な感じの母親

— 実家の母親が泊まり込みで育児支援 —

保健師が新生児訪問に行き、母親の育児に気がかりを感じ継続して支援した。

母子手帳発行時と出生届の時に新生児訪問の希望を聞き、希望者には保健師が家庭訪問をするシステムを持っている。父親が訪問を希望したので後日訪問日の調整をする約束をした。保健師が電話をする前に、電話をしようと言っていたのにまだ連絡が来ないと母親から電話があった。申し訳ありませんと言うことで日程を調整して新生児訪問に行った。



訪問時に保健師が連絡が遅れたことをわびると、母親は保健師に対して「私は今まで仕事をしていて一度も仕事で失敗をしたことはありません」と言った。育児については「この子はよく寝て子育てはしやすいです、でも私が不眠で眠れません」といい、自分の両親が紹介してくれた病院を受診する予定だと話した。また、保健師は訪問中に母親が子どものことを「赤ちゃんが、赤ちゃんが」と名前を呼ばないことにちょっと違和感を感じていた。

他ケースを訪問した後に忘れ物をしたことに気がつき、保健師が数時間後に再度訪問した。

同じ日に、何時間か後に。もう1件行って……。訪問2件入れてた。もう1件行って、ここに終わって来た時にですね、「はい」ってやって、そのままツツツツツて帰られるんです。玄関を閉めるのも何もされなくて。私が「すみません」って言う時、後ろ向いて帰ってありましたもんね。これは睡眠不足による判断力の落ちなのか、性格的なのか、ちょっとわからないと思いつつながら、もういいですって言われたんですけど、自分の中では、また電話をしようと思ってたんですよ。

その後しばらくして、この産後のアンケートが届いたんです。その時は、そういう話にまでならなかった。だから。これを見たらですね、この辺、めっちゃくちゃ行政批判をされてあったんですよ。「訪問をしてもらったけど、私の産後うつに関しては何も言われなかった。私は産後うつだと思います。私はインターネットで調べました。行政は、どうしてそんな知識がないんですか」みたいに書かれてありましたもんね。

「えっ」と思ったので訪問にすぐ行きました。すぐ訪問に行ってもですね、このアンケートを持っていったんですよ。「ごめんなさいね。あの時、もう病院も決めてあるって言われたし、このアンケートも出てなかったから、ちょっともうすみません。私も未熟で。どうされたんですか」って聞いたんですよ。

母親は自分で受診したい医療機関を見つけていた。受診した結果を聞いたところ、診察した医師から「不思議な事例だから事例検討させてください」と言われたとうれしそうに話した。診察は月に1回くらい「大変だね」「頑張ってるね、こうしたらいいんじゃない」とカウンセリング的に受診していた。

保健師も時々訪問していた。産後6か月くらいまでは「赤ちゃんはおばあちゃんと一緒に寝ています」

と赤ちゃんという言葉が多かった。生活の様子をよくよく聞くと、定年退職した祖母（母親の実母）が実家から来て、育児は祖母（母親の実母）が行っていた。

産後もですね、「赤ちゃん、赤ちゃん」って、しばらく6カ月ぐらいまで、赤ちゃんっていう言葉が多かったんです。よくよく生活を聞くと、「私は不眠症だから、私は1人で寝てます」と。「じゃあ、赤ちゃんは？」って言うと「赤ちゃんは、おばあちゃんと寝てます」って。寝るのは赤ちゃんとおばあちゃん。それいいんですかっていうか、「心配じゃないですか」って言ったら「いや、こどもは主人に似て、よく寝るタイプだからいいです」みたいに言われるんですよね。「おばあちゃんも、それでいいって言いよんしゃるですか」って言ったら、何も言われないうみたいいですもんね。普通だったら、ちょっとこう、「お母さんとこに行かんね」とか「お母さんと寝てみらんね」って。そういうアプローチはないみたいなんですもんね。

「だから、助かります」って言われるんだけど、なんかこの関係がですね、私はすごく不思議だったんですよ。こどものことは赤ちゃんって呼んだりとか、自分の親がずっと来て……。

母親は初めは自分の両親について尊敬している、すごくいい親子関係だと言っていたが、そのうち、父親に結構厳しく育てられたので一生懸命いい子を演じていたということを少しずつ言うようになってきた。

不思議な感じ。不思議な感じが、すごーく不思議なお母さん。このお母さん面白いというか、義務的な感じの子育てを感じた。愛情というよりも。この時間にミルクをあげて、この時間にオムツを換えて、この時間にこれをしてたら、こどもは育つみたいないな感じ。

離乳食のことなど何かあると保健師に電話が来る。母親の姉が他県で出産をした時にいつも育児支援をしていた実母が産後の手伝いのために不在になり、母親はパニックになった。保育園の一時保育に預けたとか、ショートステイに子どもを預けたいと言ってきた。訪問してみると、子どもはそれなりに発達していた。子どもがテレビの前に行くのを制止したいがどうしたらよいかわからない。母親はこどもが泣いてたら抱っこをして、他のことは何もしてはいけないという感覚があるみたいで、父親の実家に行った時にカルチャーショックを受けたようである。

〇〇に行った時に、自分はオシッコに行きたいんだけど、こどもが泣いてるから抱っこをしないと、泣いてるこどもを下ろしちゃいけないと。そしたら、お母さんから「いいわよ。泣いてても。オシッコぐらい行ってきなさいよ。泣かしていいじゃない」って言われて「あっ、泣かしていいんだ」って。それから、こどもを下ろしてオシッコに行けましたと。

だから多分、こどもが、もしかしてテレビの前に行ったら、行かないようにするために、自分はそこで見とかないといけないと。保育園もですね、しばらく、この子を預けたほうがいいかなって思ったんですよね。

子どもの成長に伴って保育園とかで他の子どもとかかわった方が良かったと思ったので保育園を紹介した。母親も実母が不在中に経験した一時保育の印象がよかったようで、入園を希望した。母親は専業主婦であ

ったため、受診している主治医に診断書を書いてもらって保育園に入園した。入園してすぐに子どもが病気をしたので、毎日ではなく保育園には週3日間行くことにした。土日は父親、残りの2日は実母と一緒に家庭で見ている。

環境の変化がストレスになる母親であるため、第2子が生まれた時には、保健師の方から「体重を測らせてください」といいながら訪問しなくてはと考えている。

感想: 自分は仕事がテキパキできたという母親の経歴と子育ての現状に大きなギャップがある事例である。

子育ての具体的な方法を学ぶ機会のなかった母親に、子どもに愛情を注ぐ子育て方法をどう伝えていくのか難しい。実母が今後も引き続き育児支援をしてくれることを期待したくなるケースである。

(小笹)